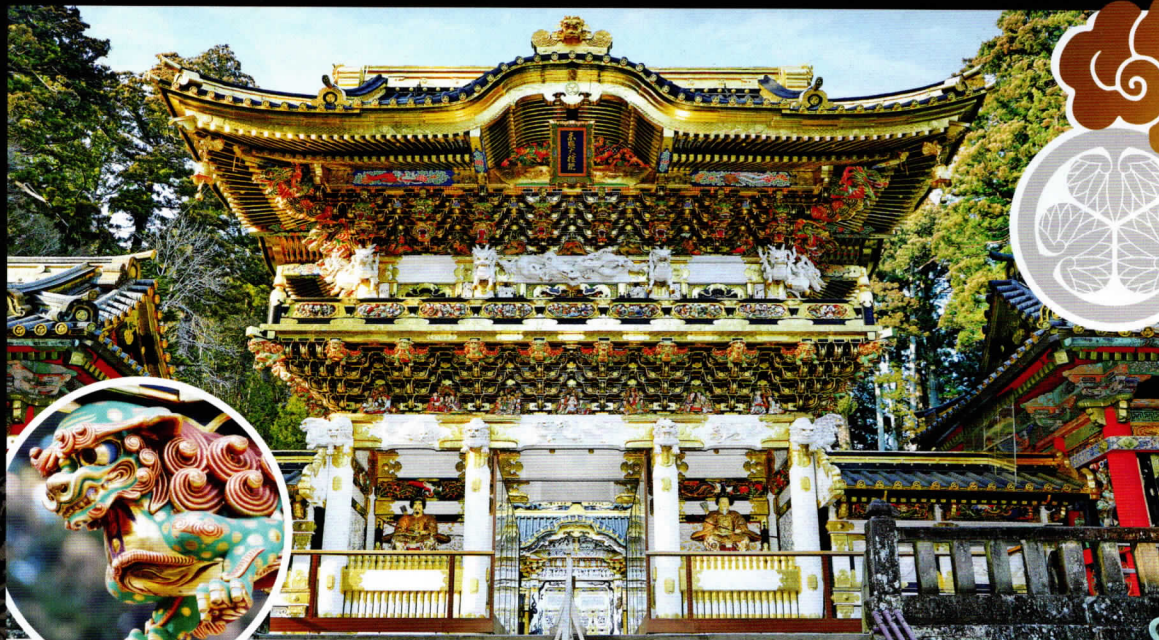


【にっこうとうしやうぐう】

日光東照宮

極彩色で彩られた絢爛豪華な社殿群

1617(元和3)年、二代将軍・徳川秀忠公により東照社(現・日光東照宮)が建立され、初代将軍・徳川家康公の御霊が久能山から遷座されました。江戸城の真北にあり、北方の守りを固める重要な場所に位置しています。



◀全国各地から集められた名工の手により綿密に彫られた彫刻は必見!!

「平成の大修理」で極彩色の輝きを取り戻した国宝・陽明門は、いつまで見ていても見飽きないことから「日暮の門」とも呼ばれています。門の随所に故事逸話や聖人賢人、唐子などの彫刻が施され、その数500以上とされています。

陽明門

現在の主な社殿群は、三代将軍・徳川家光公が行った「寛永の大造替」の際に建て替えられました。境内には国宝8棟、重要文化財34棟を含む計55棟の建造物が建ち並び、極彩色に彩られた建物は荘厳な宗教的空間をつくり出しています。これらの社殿群は1999(平成11)年に世界文化遺産に登録されました。



三猿

神厩舎の長押に彫られた猿の彫刻は人間の一生を風刺しています。中でも「見ざる、言わざる、聞かざる」の三猿が有名です。



眠り猫

家康公が眠る奥社に通じる、東回廊の門の上に据えられた猫の木彫像。伝説の名工・左甚五郎の作と伝えられています。

日光東照宮では2種類の御朱印が授与されます。



唐門

陽明門を超える、611もの彫刻が施されている

御本社(本殿・石の間・拝殿)の入口に建つ国宝・唐門は、日光東照宮で最も重要な正門です。貝殻が原材料の塗料、胡粉(ごふん)が施され、清楚な白が際立ちます。



心柱

心柱は懸垂式(吊り下げ式)で礎石から約10cm浮いています。

初層軒下の十二支の彫刻のうち、東側の寅・卯・辰の彫刻は、不思議なことに徳川三代将軍の干支と合致している



五重の塔

1650(慶安3)年、初代若狭小浜藩主の酒井忠勝公によって奉納されました。現在の塔は江戸後期に再建されたもので、高さは36m。1~4層までが和様で最上の5層のみ唐様で造られています。

こじゅうのとう

